※令和３年度以前入学生用

| 学校番号 | ２２０１ |
|---|---|

# 令和５年度　商業科

| 教科 | 商業 | 科目 | 経済活動と法 | 単位数 | ２ | 年次 | ２～４ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 経済活動と法　東京法令出版　「商業３５５」 | | | | | | |
| 副教材等 | 経済活動と法問題集　東京法令出版出版　「商業３５５」準拠 | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日々暮らしている社会生活の中で偶発的に起きる様々なトラブルがいかなる法規によって解決されているのかを学んでほしい。ある問題事象が起きたときに我々は昔からの社会規範・慣習・道徳などで問題解決を試みる。しかし、それでも解決できないときはさまざまな法律によって解決へと落とし込むのである。日常生活のトラブルを解決する法律として民法を中心に学び、具体例を自分の身に置き換えて考え理解し、今後に活かすことができる学習にしてほしい。

## ２　学習の到達目標

ビジネスに必要な法規に関する基礎的な知識を習得させ、経済社会における法の意義や役割について理解させる。経済事象を法律的に考え，適切に判断して行動する能力と態度を育てる。
（１）　経済社会における法の意義や役割について理解する。
（２）　具体的な経済事象を取り上げ、法律的に考察する。
（３）遵法精神を基盤として、適切に判断して行動する実践的な能力と態度を育てる。

## ３　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:関心・意欲・態度 | b:思考・判断・表現 | c:技能 | d:知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 「経済活動と法」の内容に関心をもち，その知識と技術の習得に意欲的に取り組んでいるか。 | 具体的な経済事象を法律的に考察し，企業の経営活動に関する課題を発見し，適切に判断できるか。 | 具体的な事例に法律の条文をあてはめ，法律的な考察をふまえて適切な結論を導き出すことができるか。 | 民法・商法・会社法などのビジネスに必要な法規に関する知識を習得し，法の意義や役割について理解できているか。 |
| 評価方法 | ノート<br>問題集<br>課題提出物<br>授業態度 | 定期考査<br>ノート<br>問題集<br>課題提出物<br>授業態度<br>小テスト | ノート<br>問題集<br>課題提出物<br>授業態度 | 定期考査<br>課題提出物<br>小テスト |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 a | b | c | d | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前期(後期) | 第1章　法の意義と役割 | 社会と法<br>法の分類<br>法の存在形式<br>法の適用と解釈 | ○ | ○ | ○ | ○ | a: 社会生活にはルールが必要になることについて，意欲的に学習しようとしている。<br>b: 公法と私法の違いについて，適切に意見を述べることができる。<br>c: 強行法規と任意法規の違いについて，売買契約を例にとって説明できる。<br>d: 社会生活における社会規範の役割について，理解している。法の適用と解釈について，理解している。 | 定期考査<br>ノート<br>問題集<br>課題提出物<br>授業態度<br>小テスト |
| | 第2章　権利・義務と財産権 | 権利・義務とその主体<br>・権利能力<br>・行為能力<br>・制限行為能力者制度<br>・法人 | ○ | ○ | ○ | ○ | a: 権利と義務の関係について，意欲的に学習に取り組んでいる。<br>b: 自然人の権利能力の始期と終期を定めた理由を考察し，適切に発表できる。<br>c: 売買取引を例にとって，債権と債務の関係を説明できる。<br>d: 権利と義務の関係について，理解している。 | 定期考査<br>ノート<br>問題集<br>課題提出物<br>授業態度<br>小テスト |
| | | 物権と債権 | ○ | ○ | ○ | ○ | a: 物権について意欲的に学習に取り組み，主物や従物を身の周りの具体的な物に応用して，あてはめようとしている。<br>b: 物を主物と従物に分類することで，どのようなメリットがあるのかを判断し，適切な意見を発表できる。<br>c: 相隣関係の規定が民法に設けられた趣旨について，適正に説明できる。<br>d: 物権の意義について理解し，物権の種類について，知識を有している。 | 定期考査<br>ノート<br>問題集<br>課題提出物<br>授業態度<br>小テスト |
| | | 知的財産権 | ○ | ○ | ○ | ○ | a: 知的財産権について興味を持ち，侵害された時の対抗手段や保護について積極的に学ぼうとする。<br>b:一つの創作に対して複数の知的財産が成立する可能性について判断し、活用について多角的考察ができる。<br>c:著作権や特許権、実用新案権など各権利ごとに内容と存続期間、出願・審査制度または権利の性質について説明することができる。<br>d:知的財産権の意味や種類について理解している。 | 定期考査<br>ノート<br>問題集<br>課題提出物<br>授業態度<br>小テスト |
| | 第3章　契約と債権 | 契約と意思表示 | ○ | ○ | ○ | ○ | a: 消費貸借や使用貸借などについて，日常生活の具体例と関連させて理解しようとしている。<br>b: 「金銭の借り入れ」がどちらに相当するのか判断できる。<br>c: 実際の各種の契約について，双務契約か片務契約か，有償契約か無償契約かを判断できる。<br>d: 契約の成立について，正確な知識を有している。 | 定期考査<br>ノート<br>問題集<br>課題提出物<br>授業態度<br>小テスト |
| | | 売買契約 | ○ | ○ | ○ | ○ | a:売買の実行行為に伴う法の存在を経済活動の視点から理解したか。<br>b: 所有権移転の時期や対抗要件のことと、売買のビジネス経済的意味との相関について的確な思考判断ができたか。<br>c: 売買契約を瑕疵なく締結し履行するための「世間知」が自分のものとなっているか。<br>d: 売買が人生の喜びや悲しみに直結する事象たりうることの法律的裏付けを知識として持ちえたか。 | 定期考査<br>ノート<br>問題集<br>課題提出物<br>授業態度<br>小テスト |
| | | 賃貸借契約 | ○ | ○ | ○ | ○ | a: 貸借の種々相とそれに伴う「社会的相互作用」を法律的にどう心得るべきか。<br>b: 宅地の貸借など特別法はなぜ作られたか、その立法の趣旨を判断できるか。<br>c: 物の貸借が一般に有償であること、金銭の貸借については法定利息の場合もあることの理解が身にしみているか。<br>d: 貸借わけても金銭貸借について将来の生活設計とのかかわりから的確に知識として理解し体得できたか。 | 定期考査<br>ノート<br>問題集<br>課題提出物<br>授業態度<br>小テスト |
| | | 債権の管理と回収<br>・債務不履行<br>・物的担保<br>・人的担保<br>・契約によらない権利 | ○ | ○ | ○ | ○ | a: 瑕疵担保責任と債務不履行責任を対比させ，意欲的に学習しようとしている。<br>b: 債務者が債務を完全に履行しない場合の責任と瑕疵担保責任との違いを理解し，その違いを論理的に説明できる。<br>c: 債務履行３つの種類について，債権者の保護手段を含め適切に説明できる。<br>d: 債務不履行の３つの種類について知識を有し，責任の態様を理解している。 | 定期考査<br>ノート<br>問題集<br>課題提出物<br>授業態度<br>小テスト |

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。